

# 地域住民による活性化事例 について

## 事例①

# 地域の人々が起業し、法人化により地域経済を活性化

## 大分県宇佐市安心院松本集落（イモリ谷）

- ✓ もともと米どころとして評判で自己完結型の営農が伝統的に行われていた。
- ✓ 平成12年に安心院町独自の転作助成金を機に、集落営農組合を設立し、農地の団地化による大豆生産に取り組み、豆腐づくりも盛んに行われ、イモリ谷ブランドとして販売される。
- ✓ しかし、国の政策転換や助成金の減額により、大豆生産も厳しい状況に…
- ✓ そこで、新たにブドウの生産とワインの開発に着手。秘境のワインとして国産ワインコンクールを受賞するなど、イモリ谷の主要産業の一つとなっている。



**地域の人々が、直面する問題に対して「何とかしなければ！」という気概を持って会社を立上げ、地域経済の活性化を実現**



## 事例②

# 中山間地域の食材に注目 地元農家による地場産品を提供する直売市

## 宮崎県加美町

- ✓ 農業所得の向上を目的に地元温泉施設の沈設地に建てられた「やくらい土産センター」、そこで地元農家を中心に設立された「さんちゃん会」が農産物の直売活動を行っている。
- ✓ 設立当時は販売実績が伸びなかったが、徐々に直売活動が軌道に乗り、それに伴い生産意欲も向上。地域の遊休農地の再利用に繋がっている。
- ✓ 地元山菜の魅力を生かし農家レストランや農家民宿を開業する農家も現れるようになり、グリーンツーリズムの町として発展を続けている。



**地元農家による取組により、農家所得の向上にとどまらず、生産者の意欲向上、遊休農地の再活用に繋がっている**



### 事例③

## 「自分たちの地域は自分たちで守る！」 新たな自治組織による“近代的いなか社会”づくり

### 山口県山口市仁保

- ✓ 深刻な過疎化に対して、自治会、農協、婦人会等の団体が、共通の場を持ってむらづくりを進められるように「仁保地域開発協議会」を結成。
- ✓ まちの中心であり、幹線道路の結節点になる場所に行行政サービスや生活機能を集約させる「ワンストップサービス」構想を立て、住民自らが用地の確保を行い市に談判。平成12年に道の駅「仁保の郷」が開設、協議会による運営
- ✓ 各家庭のちょっとした産品を売れる市場が欲しいという声が上がったことから、住民がめいめい何でも持ち寄って自由に格安販売する「いろどり市」を開設、道の駅の一角で開催
- ✓ さらに、加工した方が売りやすいという声から、加工組合を立ち上げて、共同の加工場を設置



**地元が中心となり運営・参画することで、住民が“自分たちの店だ”という意識を持ち、仁保の人々の誇りの拠り所となっている**



## 事例④

# 漁村留学と空き家の活用による移住促進

徳島県美波町伊座利地区 —伊座利の未来を考える推進協議会—

- ✓ 赤ちゃんからお年寄りまで全住民で構成する「伊座利の未来を考える推進協議会」を結成（平成12年4月）
- ✓ 協議会が1件ずつ所有者と交渉して空き家を借り受け、転入者のための住宅を用意（現在は13戸を確保し満員）

### 【漁村留学制度】

- ✓ 体験留学の条件は親子一緒に留学すること。1学期だけの短期留学など、期限を設けての留学も可能。
- ✓ 空き家の修繕は協議会が行っており、費用も協議会が負担している（市の補助がおきることもある）。



**子どものいる世帯の転入等により、平成6年に40%を超えていた高齢化率が徐々に低下し、平成20年には26%になっている**



協議会が所有者から借り受けた住宅

# 事例⑤

## 生きがい・健康づくりに関するイベントの開催

### 餅つき大会



道の駅おばあちゃん市・山岡  
(岐阜県恵那市)

### 手作り品マーケット



たんばなないろフェスタ  
(兵庫県丹波市)

### 歴史 & 健康ウォーキング



大阪信用金庫イベント(大阪府堺市)

### 農作業体験



成増農業体験学校(東京都板橋区)

### ピザ作り体験



道の駅阿蘇(熊本県阿蘇市)

### 味噌作り体験



道の駅阿蘇(熊本県阿蘇市)